

行仙宿小屋に雨戸・格子の設置と腐った胴縁取替工事

◇実施日：2020年9月26日（土）27日（日）晴

◇参加者：木下棟梁、沖崎吉信、生熊敏男、濱野兼吉、梶野照雄

5名（宿泊）

26日日帰り；畑林秀味・清子、山川治雄 3名

27日日帰り；松本吉殖、畑林清子、大江加予子、山川

治雄・自知、脇浜ガラス店2名 7名

我々の現活動は玉岡相談役をはじめとした諸先輩方の大変なご苦労がベースになっている。特に玉岡さんは満95歳を過ぎた今でもハード、ソフト両面についての維持管理活動について、時代の変遷、会員の動向を踏まえどうあるべきかと常に気にされておられるし、我々に対して時折厳しい注文もある。今回の雨戸取付もその一環である。

出来ることから応じるべき、と今年6月ごろから準備を始めた。

6月24日、沖崎、畑林（秀）、梶野の3人に松本板金さんにも同行いただき行仙宿へ出向く。採寸と取付方法、またどのような雨戸にするかを検討した。当初は会員のみで取り付けが可能なと思われるが、外壁トタンの下に雨戸の枠を取り付けるための木材が必要だと判り、木下棟梁の助けを借りる必要があった。雨戸の種類については、一番多用されているシャッター式がベストであるとの結論

になった。帰新後、木下棟梁にお会いして事情説明し快く引き受けて頂いた。その足で脇浜ガラス店へ二人で出向き発注を行う。傍で聞いていたが、その内容は素人が簡単にできるものではなかった。雨戸の取付下地の完成後に脇浜ガラス店さんにも現場に来ていただいて取り付け作業を行ってもらうことで段取りを終えた。

9月に入っても残暑が続く、木下棟梁の体調面もあって工事は涼しくなるであろう9月中旬以降に行うことにした。

工事日までに、8月9日雨戸部材9梱包とアルミ格子、足場板を15名で荷揚げ。9月13日に下地となる角材10本と棟梁の大工道具などを荷揚げした。雨戸工事は9月18日（金）19日（土）、予備日を25日（金）26日（土）に行うこととした。

9月になって台風が発生などで不安定なお天気が続く、当初予定の18日、19日は雨の予報で延期した。以後の週間予報でもお天気は芳しくないが、予備日としていた25日、26日に実施の方向で準備した。25日の予報が完全に雨になり、26日、27日が張れる予報になった。3日前に26日、27日の二日間で工事することを決め、皆さんへの連絡などを行った。

予報通り25日（金）は新宮で一時間雨量が100mmを越える豪雨となり、我が家も浸水寸前となった。会員の皆さんに被害はないか？R425は通行できるか？など最後までヤキモキの連続だった。幸い紀伊半島南東部だけの豪雨で、下北山村付近は普段の雨と変わらず被害は全く無かったようだ。

【9月26日（土）】

朝7時、畑林秀味・清子さんの二人が先行して出発。8時、沖崎

車に4人が乗って出発した。9時半少し前に登山口で山川さんと合流、モノレールに生熊さんと木下棟梁が乗り、荷物を満載して登って行った。なお梶野君は今日亡母の法要が午前中にあり、行仙宿の到着が午後3時過ぎになった。



雨戸取付の下地

雨水侵入で腐った胴縁 テーブル一杯の食材

モノレール終点で各自背負子に荷を分担して10時半前に行仙宿に着いた。早速工事準備に取り掛かる。まず足場を作る。脚立を両側に立てて足場板を2枚重ねで渡す。犬走りは東側に傾斜しているので、水平を保つために砂袋を低い方に置いた。足場板に登ってみてが安定しているので安心した。

棟梁の指示で北側の窓周囲のトタン板を剥がす。足場には2人しか立てないので、沖崎、畑林が上部を、生熊、濱野の2名が下部の釘を抜く。やってみると思ったより簡単に釘が抜ける。30分位で釘を抜き終わり、トタン板に番号を書き、再取付の時に間違いないようにした。トタン板を剥がしてみても判ったことだが、窓サッシの

縦左右の隙間から雨水が入り込み、胴縁が腐って釘が外れている箇所があった。柱にも腐っている所があったが表面だけで芯はしっかりしていて大事には至っていなかった。



夕食始まる



本日の宿泊者



懇談が続く

トタン板を剥がし終え、棟梁が雨戸の下地となる角材を窓の周りに取付ける。同時に腐った胴縁を切り取り新しいものと交換した。北側の雨戸下地の作業が終わり昼食。午後は 南側の窓に雨戸の取付下地を作る。南側の窓サッシ左右にも同様の腐食があった。窓上のシャッター収納部分を除いてトタン板を戻す。一部を露出しているのは、明日、雨戸取付時に工事人に下地を見せるためだそうだ。

3時頃には2ヶ所の雨戸下地の工事は完了した。窓サッシ左右の雨水侵入による腐食が発覚したので、カマド上の窓と行者堂の窓にも同様の腐食が予想されたので、トタンを剥がしてみた。やはりどころかも腐りがあった。カマド上の窓には暖かきもあるのか、アリ(シ

ロアリではない)が巢を作っていた。腐った部分を切り取り新しい材料で補強してトタン板を戻した。

3時頃には梶野君も入宿し、5時過ぎから夕食準備を始めた。

畑林君差し入れのマグロのせせり、生熊さんからイカの一夜干し、濱野君からイモの茎、棟梁からアジの干物に加え持参のおでん、イカ、タイ、アジなどのお造りなどの山海の珍味がテーブルに並び、高級料亭の様な大宴会が始まった。

大阪吹田市からの宿泊者一名を招き入れ、6人で棟梁の行仙宿小屋建設時の苦労話も肴に大いに盛り上がった。明日の作業もあるので午後8時過ぎに床に就く。梶野君は夜中何度か起きて薪の補充をやってくれた。小屋内は22℃に保たれ、寒さは無く熟睡できた。

【9月27日(日)】



起床



カマド窓の下



腐って無くなっていた

明け方4時前から宿泊者がガサガサと出発準備をはじめ、いつも

と同様に早く目が覚める。明るくなった6時過ぎから朝食準備を始め、発電機を動かしてサトーのごはんを電子レンジでチン、干物、味噌汁、海苔、漬物で典型的な日本の朝食を済ませる。梶野君は「立派な朝食だ」と満足していた。

6時に新宮を出発している脇浜ガラス店の2人迎えるために7時に沖崎が登山口に降りる。予定通り2人は7時半に登山口に到着し、モノレールで再び登って8時に行仙宿に着く。

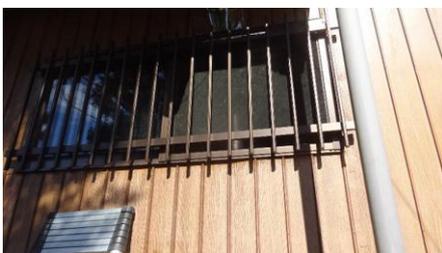
管理棟から小屋内に移していた雨戸の梱包を解いて組立作業に着手した。

今日の日帰り組、松本、畑林(清)、大江、山川親子の皆さんも9時半〜10時前には行仙宿に到着。松本さんは多くの重い工具を持参されたが、雨戸の組立・取り付けはサツシの専門職に任せて西側窓周りの点検をして頂いた。西側は釘もしっかり止まっていて、胴縁のクサリは無い、ということで一安心。窓サツシのコーキングをして頂いた。

今日は10名の会員が参加していただいたが、作業はサツシ屋さん2人と木下棟梁がメインで、我々は見守るか脚立を押さえる位のことしか出番がない。このままでは無駄に時間を過ごすことになるので、昼食を挟んで次のような作業を行った。

- ◎行者堂横の檜木撤去
- ◎薪造りと整理
- ◎薪置き場2ヶ所増設(檜木があった場所と三差路)
- ◎荘川桜鹿除けのため第2ベンチ下のネット回収
- ◎小屋内の清掃・整理(女性陣)
- ◎トイレ便槽点検

サッシ屋さんの作業も見守っていたが、組立・取り付けにかかった時間より、取り付けた後の処置に手間がかかるようで、取り付けた後の時間の方が長かったようだ。昼食までに北側の雨戸が完了し昼食もそこそこに南側に取り掛かり午後2時前に終了した。



雨戸枠組立完了

格子は短時間で取り付け

雨戸枠の取り付け

カマド上の窓の格子と雨戸2ヶ所が完成した。ヤレヤレやつと出来た。雨戸の取り扱い説明を聞き、脇浜ガラス店の2名は2時過ぎに下山された。

全員で後片付けを行い、午後3時過ぎに下山、梶野君は帰り道に池郷林道に入って崩落の状態を確認してくると言うことだった。

その日の夜に連絡があり「ゲートの少し上で大規模な崩落があり、林道は通行不能。人力では何もできない」と言うことで、しばらく池郷林道は使用できない。

いやはや皆さん、ご苦勞様でした。二日間で延18名の会員にご参加いただき厚く御礼申し上げます。



薪造り



取り付け工事完了



本日の参加者



登山口で解散



池郷林道の崩落現場

最初に雨戸の話が玉岡さんからあった時、30年以上幾多の台風にも耐えてきているし、必要なのではないか？とも思ったが、今回の工事で外壁トタンを剥がしていなければ胴縁の腐食もわからず、放置す

れば屋台骨の柱まで腐食していた可能性も考えられる。腐食が進む前に発見・修繕が出来たことを感謝しなければならない。

これで小屋の耐用年数が少し延びたと思う。

雨戸の取り付けは会員のみで行えると思っていたが、やはり木下棟梁や松本板金さん、脇浜ガラス店のプロの方々に行仙宿に登って頂いて作業に当たってくださった事は大正解だったと思う。

今後、持経・平治小屋の窓サッシにコーティングする必要がある。体調がすぐれない中、二日間にもわたる工事・点検・修繕にご尽力いただいた木下棟梁に厚くお礼を申し上げます。

(記；沖崎、写真；梶野)

行動タイム

9/26 09：25 登山口→10：27 行仙宿→17：20 夕食→20：10 消灯
9/27 05：45 起床→06：15 朝食→07：00 出迎えのため下山→08：
10 行仙宿→13：50 雨戸工事終了→15：05 下山開始→15：35 登山口